

昭和五十二年五月

平城宮発掘調査出土木簡概報(上)

奈良国立文化財研究所



平城宮第97次出土木簡

左衛門府
年漢律制五十二
久未三月
...

...

...

左衛門府
年漢律制五十二

...

...

...

...

...

平城宮第99次出土木簡

この概報には、さきに公刊した『平城宮発掘調査出土木簡概報十』（昭和50年4月）以後、平城宮跡から発見された木簡を主として収録する。また既に発掘調査概報が公刊されて一部公表されているが、平城宮跡発掘調査部が奈良県から委託された東市周辺東北地域の調査、および近畿郵政局から依頼された平城京左京三条二坊六坪の調査において出土した木簡も、今回あらためて収録することにした。以下、木簡の出土地域ごとの状況を述べ、木簡の形態分類、凡例と釈文をかかげる。

一、木簡出土の地点と状況

第97次調査（GABR区）昭和51年4～7月

発掘調査区は推定第一次朝堂院の朝堂区画の東北隅近くにあたり、第41次調査に南接する地区である。主な検出遺構は、朝堂区画の東面を限る南北塀・築地3条、東第一朝堂にあたる南北棟礎石建物1棟、基幹の排水路である南北溝2条などである。この地区には、和銅創建時に基幹排水路の南北溝SD3765が掘られたが、のち全面的な整地によって埋め立てられ、朝堂区画の東面の区画である掘立柱南

北塀が作られ、またその東にはSD3765の代りに南北溝SD3715が掘られる。SD3715は以後二度の改修をうけながら、奈良時代末まで存続する。SA5550Aはのちに築地SA5550B、掘立柱塀SA5550Cに作りかえられる。SA5550Bと同時期に朝堂区画内には、東第一朝堂にあたる南北棟礎石建物SB8400が作られ、以後奈良時代末まで存続する。木簡は南北溝SD3715と、これに設けられた堰状遺構SX8411、及びSD3715に東から流入する東西溝SD8419から総計163点出土した。

SD3715・SX8411出土木簡

SD3715から20点、SX8411から138点出土している。SD3715では、下層の溝の上・中層の堆積である暗灰色粘土層から出土している。この暗灰色粘土層は有機物を含んだやや荒目の粘土であり、その上下の砂の堆積土に比して特徴的なものである。

SX8411では、堰の杭・板材が遺存していた北側（上流）、並びに南側（下流）の溜りの部分に堆積した暗灰色粘土層から、大量の木片、若干の木製品などとともに出土している。SX8411の暗灰色粘土層はSD3715のそれと同一層位であり、両者からの出土木簡は同一時期のものであるので、一括して扱う。

これらの木簡は、まとまった一つの性格を示し、神亀から天平初めに宮内で行なわれた造営事業に関する木簡と考えられる。ただし、造営の地域を所謂第一次、第二次の内裏・大極殿・朝堂院のいずれに求めるかは今後の重要な課題となろう。

なお第41次発掘調査出土の木簡については『平城宮発掘調査出土木簡概報五』を参照。

SD8419 出土木簡

SD8419はSD3715に東方から流入する東西溝で褐灰色粘土層から5点出土している。この層位がSD3715などの層位に対応するかは確認できなかった。「元年正月」とある1点のほかは全て断片である。

第99次調査（6ALF区）昭和51年10月～52年1月

発掘調査区は平城宮東張出し部東南隅にあたり、第44次調査（6ALF・6ALG）で発見した庭園の北半部と、東面大垣および二坊々間大路西側溝とを調査した。出土木簡の総点数は579点である。

庭園地区はA・B二時期に分かれる。A期の遺構は、下層園地（SG5800A）と池の西側上の掘込地業を施した3×

2間程の礎石建物（SB 8480）および池の東北隅に流入する南北石敷溝（SD 8456）がある。池は全体で南北60m、東西^{54.6}mあり、大垣に沿って鍵の手に屈曲して広がる。その造成年代は出土した土器や瓦からみて奈良時代初期と考えられる。

B期には、A期の池を全面的に改修した上層園池（SG 5800B）が現出する。池の概形は旧池を踏襲し、西岸に東西棟の礎石建物、その前面に塀囲い、塀囲いに結ぶ池中の建物や渡廊下あるいは橋など多くの構築物が点在している。木簡の多くはこの上層園池底の玉石敷直上の堆積層から他の木片類とともに10点出土した。この上層園池はやはり出土瓦・土器からみて、天平勝宝年間の改作にかかるとみられる。

園池の廃絶時期は、池底堆積層中の土器から九世紀前半とみられ、木簡もその時期のものとして推定される。墨書土器に「蔵人□^(所カ)」と記したものがあるのが参考になる。

東面大垣地区は大垣南端から113m北方までのうち、南からE、D、Hの三地区を調査した。

検出した主な遺構は築地大垣（SA 5900）、築地東雨落溝（SD 5815）、東二坊々間大路西側溝（SD 5780）などであ

る。

D、E区では築地本体の痕跡は認められず、基礎地業のみ発見された。雨落溝はE区では素掘りの溝だが、D、H区では両側に瓦を立てている。坊間大路西側溝は三地区とも東肩は確認していない。幅6m以上、深さ40～60cmの素掘りの溝である。木簡は三地区ともほとんどが大路西側溝（SD5780）の堆積土中から出土した。

E地区では3点出土したが、共に側溝の二層の堆積土の下層からである。

D地区でも二層の側溝堆積土の下層から14点、築地東雨落溝中から1点出土した。

H地区では築地東雨落溝から1点出土している外はすべて側溝から出土した。側溝の堆積土は当地区では三層からなり、木簡は各層から出土している。このうち大垣を暗渠で抜けた東西溝（SD8436）が側溝（SD5780）に流下するH地区南端部分は、土壇状を呈する黒色の有機物層となっており、そこから大部分の木簡が出土した。このことから土壇状部分の木簡は宮内で廃棄されたものが大路側溝に流出したとも考えられる。これらの木簡は、年紀が天平15、18、19、20年のうちに限られ、また食品関係の内容が

多いことが特色である。

東市周辺東北地域調査 昭和50年1～6月

発掘調査地は平城京左京八条三坊内の東北四町を占める九・十・十五・十六坪にあたり、坪と坪との間の小路の交叉点を中心に住宅、寺院などの遺構を検出した。主な遺構は九坪の中央を南北に貫流する堀河（SD1300）と、坪境の小路および道路状遺構とその側溝、九・十坪を中心に堀立柱建物90棟余、井戸9基、十五坪の寺院建物跡などである。これら奈良時代の遺構と重複して弥生時代の小河川、溝、土壇、小ピット群も検出した。

木簡は前述の堀河SD1300から5点、九・十坪の坪境の小路の南側溝SD1155から25点、合計30点出土した。堀河SD1300は東市の重要な運搬路であったと考えられる。

なお墨書のある紙の断片3点も発見された。釈読できる1点を掲げる。

『平城京左京八条三坊発掘調査概報―東市周辺東北地域の調査』（一九七六・三 奈良県）参照

平城京左京三条二坊調査 昭和50年6月、10、12月

発掘調査地は平城京左京三条二坊に相当し、坪内の約1/2を全面調査した。その結果、坪の中心部を南流していた旧河川路を利用して園池を造成し、これを中心に塀、建物が計画的に配置されていることが判明した。園池は全体を石組で固め、蛇行した曲池のような形状で、観賞と同時に雅宴などの行事に供する庭の機能をもつものと思われる。

木簡は園池への導水路SD1525の堆積土の下層に近い暗灰砂混り粘質土中から出土した。和銅5年、7年の年紀のものがあり、地名表記等から考えて、いずれもこの時期のものと判断できる。

なお、当遺跡は昭和51年12月、特別史跡に指定された。

『平城京左京三条二坊六坪発掘調査概報』（昭和51・3 奈良国立文化財研究所）参照

二、 木簡の形態分類

6011型式 短冊形。

6015型式 短冊形で、側面に孔を穿ったもの。

6019型式 短冊形と推定できるもの。

6021型式 小型矩形のもの。

6022型式 小型矩形の材の一端を圭頭にしたもの。

6031型式 長方形の材の両端左右に切りこみをいれたもの。

6032型式 長方形の材の一端の左右に切りこみをいれたもの。

6033型式 長方形の材の一端の左右に切りこみをいれ、他端を尖らせたもの。

6039型式 長方形の材の一端の左右に切りこみがあるが、他端は折損あるいは腐蝕して不明のもの。

6051型式 長方形の材の一端を尖らせたもの。

6059型式 長方形の材の一端が尖って他端の形態が不明のもの。

6061型式 用途の明瞭な木製品に墨書のあるもの。

6065型式 ある種の用途をもつと推定される木製品に墨書のあるもので、その用途が判然としないもの。

6081型式 折損、腐蝕その他によって原形の判明しないもの。

6091型式 削屑。

三、凡例

釈文は出土遺構ごとにかかげる。最上段に出土地点（アルファベット・数字）、つぎの段に形態による型式分類番号（本概報では千位の6を省き、三ケタで表わす）をそれぞれ記した。「」が二個あるものは表裏に記載のあることを示し、「」の中にさらに「」のあるものは同一面に別筆のあることを示す。

平城宮第97次調査

SD三七一五・SX八四二一

BG₄₇ 011 「進上瓦三百七十枚
女瓦百六十枚
 鐘瓦七十二枚

宇瓦百卅八枚

功卅七人十六人各十枚
 九人各八枚

廿三人各六枚

「付葦屋石敷

神龜

六年四月十日
 主典下道朝臣向司家

BG₄₇ 019

「式部省召

中務省

右大舍人寮

陰陽寮

右省

閏□月十六日

BG₄₇ 019

「進上女

□(瓦)

BG₄₇ 081

「(宇)□瓦卅枚

□車一

□(兩)

BG₄₇ 081

「

里工作高殿新短牧桁二枚

□

BG₄₇ 081

「西高殿四人



BG₄₇ 019

「東高殿

卅




BG 47 019 「雇工泉真造木□廿一枝條十六」

雇工器佐真十十十三人
(他三習書ノ文字アリ)

BG 47 091 「申木屋司御前」

BG 47 081 □□進小石一石

□

BG 47 011 「村^(材) □□^(引堅) 麻呂小斗四村^(材) □□^(引堅)

BG 47 019 「柱一^(根) □□^(木) 二□□

七□□□

BG 47 019 「樽廿送」

BG 47 081 「右二人丸桁二枝継目□引堅 田ア大嶋京小斗四村^(材) □□^(引) □□^(堅)

引堅又丸桁一枝端鑿

BG 47 019 □□

□□

全生ア首麻呂小斗四村^(材)

BG 47 081 「端切口引□」

BG 47 081 □□^(琴柱) □

□

BG 47 081 「充針□七十枝 付佐^(夜) □^(夜) 三月一日

BG 47 081 □□^(隻) □木 □□^(釘) 四隻

□□□□□

BG 47 081

厚二寸六分

一尺

□□

BG 47 081

刑部家(船)

□□□□

忌寸麻呂

BG 47 081

嶋豆

得万呂

□□

BG 47 019

判(豆)米(豆)秦大蔵

秦大蔵(蔵)

蔵蔵

楢持

日下了人豆

二人柱作

市秦夫(豆)秦夫(豆)秦夫(豆)

秦秦

惠(嶋)

小子得万呂

田邊五百(万)

枝鉈作二

BG 47 081

穉(穉)椅(穉)語

小子檜前

得豆山下小

BG 47 081

勾五百豆

柱一枝

BG 47 019

右四人

檜前万呂

真束國猪名石

BG 47 081

原一人

落一人

BG 47 081

大田物了廣豆

秦万呂

日下了身

BG 47 081

錦部連宮 河内

赤菜徳太理 河内

BG 47 033

河内 錦部(種)龍

大市首廣嶋

BG 47 091

BG
47
081

出
 田手
 寄
 寄

BG
47
011

上 総三
 相模十八人
 能登一人
 常陸一人
 合廿三人

BG
47
081

五年四月内荒田井大夫銭

BG
47
039

十一月十六日給銭人
 高田

BG
47
081

赤万呂
 銭四十五文

BG
47
081

神龜三年四月六日土師宿祢

BG
47
039

神龜五年正月

BG
47
081

天平二年十一月廿三日文忌寸麻呂
 小子了(志斐)

BG
47
091

天平三年二月廿六

BG
47
019

天平(三)年三月十六日

BG
47
081

十一月廿五日酉時

BG
47
019

付大伴

BG
47
019

年魚缶

(若狭國遠敷郡)

BG
47
081

敷郡青郷
 川邊里 庸米六斗秦

天平二年十一月

BG 47 039 「美濃国厚見郡草田郷」

「物了□□米六斗」

BG 47 081 「周芽國□」

BG 47 039 「淡路国三原郡カ」

BG 47 032 「八野郷□□」

BG 47 032 「郡」

「庸米五斗」

BG 47 081 「(橋)米六□」

SD 八四二九

BG 47 081 「□□□」

「元年正月」

平城宮第99次調査

SG 五八〇〇

KP 72 032 「宗麻呂方一丈」

JB 72 032 「貞雄方一丈」

JB 72 032 「忠安方一丈」

JE 64 022 「(第)第十五櫓」

KS 70 081 「(伯耆國)河村郡河村郷白米五斗」

KR 71 059 「□□者見見月月有」

「□六四三二一日月」

JE 72 081 「春米□」

「春春春□」

SD五七八〇

HB 57 061

北一齋
殿出帳

(題籤)

天平廿年

HB 56 061

大炊寮

(題籤)

十九年

HB 57 059

左衛士府

年魚御齋五十三斛

數受

天平十九年

受

HB 57 011

春日所充
十九日猪

(養)

七十把
天平十九年七月

HB 56 011

鷗造花苑所請雇人三百六十八人食

米七石
三斗六升
三石一斗四升二合
三月一日專受葛木梶嶋

HB 57 019

供養所食口
和井廣造
右添人

二月廿四日

HB 56 019

造宮所

請酒糟一ニ夕許

二月二日

HC 57 019

請糟五升東蘭器運衛士并舍人料

(凡)

HB 56 081

文圖別廿文
八文別十八文

駄四匹

成 天平十八年四月廿八日

HC 57 019

返上燒遺油二合

天平十九年七月六日八多

HB 56 019

謹解

(鹿) 尊

(右依) 今要用垂恩澤

HC 57 019
「皮」
「残十二文」
「進納」

HB 57 011
「梓」
「秋卷」

HB 57 011
「梓」

HB 57 011
「梓」

「年臭廿四隻」

HB 57 061
「籠」
「四両二分」
「糸一斤」
「(糸巻ノ横木ニ墨書)」

HB 57 061
「油」
「(厘右・モト同ノ糸巻ナリ)」

HC 56 011
「厨坊宿人」
「倉橋部人」
「久米一万呂」
「因幡田作」
「山口廣」

「合九人」
「十月七日倉橋部人」

HB 56 081
「盤」
「十口」

「酒」
「月廿二日」
「丸」

HB 56 081
「高盤」
「(三ツ)」

「付」

HB 57 081
「三」
「口」

「二月」

HB 57 081
「六千二百村」
「(村)」

「六千四百村」
「(村)」

HB 57 091
「九年八月十日」

「内蔵乙万呂」
「鴨諸弟」
「福」
「万呂」

HB 57 091

□九年八

HB 57 081

□黑泰 下野小刀良

HB 57 081

□□□□□

HB 57 091

□□□□□

廿年□月五日出

HB 57 091

位下行少志山口忌

HC 56 081

□□□^(野) □大□□進舎人物□□□^(勿)

HB 56 081

□トア万吕年

九月八日安主錦部豊永

HB 57 091

□^(物)ア□万吕

HB 57 019

□年十月卅日從七位上紀朝臣僧万吕

HB 57 091

下河内廣

HB 57 091

□廿八日弓削

HB 57 091

右京人 (他ニ習書ノ重キ書アリ)

HB 57 011

□□戸主物ア乙万吕

HB 57 091

大市人

命命命命命

HB 57 019

十一石七斗六升 九石九斗□升 日八石五斗四升

廿七斗四升 廿七斗四升

HB 57 091 「右衛士府」

HB 57 091 「豎子所」

HB 57 091 「刀子所」

HB 57 091 「中官」

HB 57 081 「大舍人」

□
□
□
□
□

HB 57 081 「筑紫厨」

HB 57 091 「八口内御廐全」

HB 57 081 「多比十三須之」
□^(岐)
十
□^(阿)
□^(治)
八

HB 57 081 「御贄鮭五十二」

HB 57 081 「^(西)箱年魚」

HB 57 091 「十三日進鮪」

HB 57 081 「九日進」
□^(腹)
□^(力)
□

HB 57 091 「^(進)衣一百卅」

HB 57 019 「損廿五果」
□
□
損廿七果

□
□
□
□
□

HB 57 081 「参直錢」
□^(五)
十六

HC 57 091 「^(廿)二人給料」

HB 57 032 「雉腊」

HB 57 039 「^(河)年魚」

HB
57
081

「
□
□
鴛鴦
□
」

「
文
字
」

「
米
物
物
物
」

HB
57
091

「
□
鰓
鱈
鯖
鮭
鮪
□
」

HB
57
091

「
鯛
暗
鴉
鶉
鷹
」

□
□

HB
57
081

「
麻
須
」

HB
57
091

「
內
充
鴛
」

HB
57
091

「
鴛
」

HB
57
091

「
鶉
三
」

HB
57
091

「
鷹
養
」

HB
57
091

「
鷹
」

HB
57
091

「
□
狀
巡
行
部
下
積
加
□
□
」

HB
57
091

「
□
□
不
□
□
處
分
者
部
」

HB
57
091

「
右
得
部
□
□
□
□
」

HB
57
091

「
東
直
度
御
門
」

HB
57
091

「
日
廿
九
夕
十
」

HB
57
091

「
油
一
合
」

HB
56

「
里
刑
了
意
比
調
爐
三
斗
」

「
天
平
十
五
年
九
月
」

HB
56
033

「
播
磨
國
中
栗
郡
」

「
柏
野
鄉
山
下
人
足
米
五
斗
」

HB 57 031 「赤穂郡大原郷秦造吉備人丁二斗

「并々 廣一俵

HB 56 051 「赤穂郡大原郷戸主秦造吉備人

「□□

HB 56 033 「播磨國兵兼郡余戸里丸了□□

HB 56 039 「佐用郡柏原々□

「□□

HE 56 059 「河々 國益頭郡中男作物煎

HC 56 081 「備前国邑久郡

HE 56 039 「肥後国天草厩々□

「□□

HB 57 091 「住々 吉郡

HB 57 091 「住々 吉

HE 56 039 「阿波

HB 57 033 「大野直々□□廣国

HB 56 039 「米一俵

DD 56 081 「都々 都牟自 諸忍

「故使 □□等急之向□

DE 56 081 「□□諸背取未時向□□□

「□

DF 56 081 「□□舍人部未呂

DD 56 059 「美濃國」大野郡赤見里工部□(經方)□

「米六斗」

DE 57 039 「六年四月□(六廿)□」

ES 56 039 「余□布廿六端」

「□□卅□(西約方)余糸四約」

ER 56 081 「罪頓首 左兵衛」

SD 五八一五

DE 59 019 「(東方)菌進上□」

「樂□□□□□(三方)種付三□」

平城京東市周辺東北地域調査

SD 一一五五

HR 59 019 「東宮青奈 直□(銭方)」

HR 57 019 「進上駄一返功四束」

HR 56 051 「□□国□□」

「□□郷戸主別公小豆戸□□□」

HR 44 081 「□ 四月十五日」

HR 57 081 「(道方)首首道道為□(為方)」

HR 46 081 「養養養養養(養方)□」

「□□□□□□□□」

HR 59 「水猪□ (紙片)」

SD 一三〇〇

JK 66 019 「□年料花油一斗三升□」

「九年九月廿五日」

JK 69 019 「符民使 彼在□」

JD 67 081 「□□□六果□樂」

JK 66 081 「□百廿文□」

平城京左京三条二坊六坪調査

SD 一五二五

QD 29 011 「御坏物直米二升充奉」

「受古女 九月三日 椋垣忌寸」

QC 28 011

「符□□田□ 片距了□□□□^(三月)」

「貳斛陸斗伍升□□ □長江□□古才呂^(受)」

QD 29 011

「椋下智麻呂 高椅善麻呂 越越」

「身身身□□ 人々人々人々^(受)」

QD 29 081

「五百卅二 一校授」

「二百七十 □卅 且」

QC 27 081

「中務省少録^(正七位)□□□□」

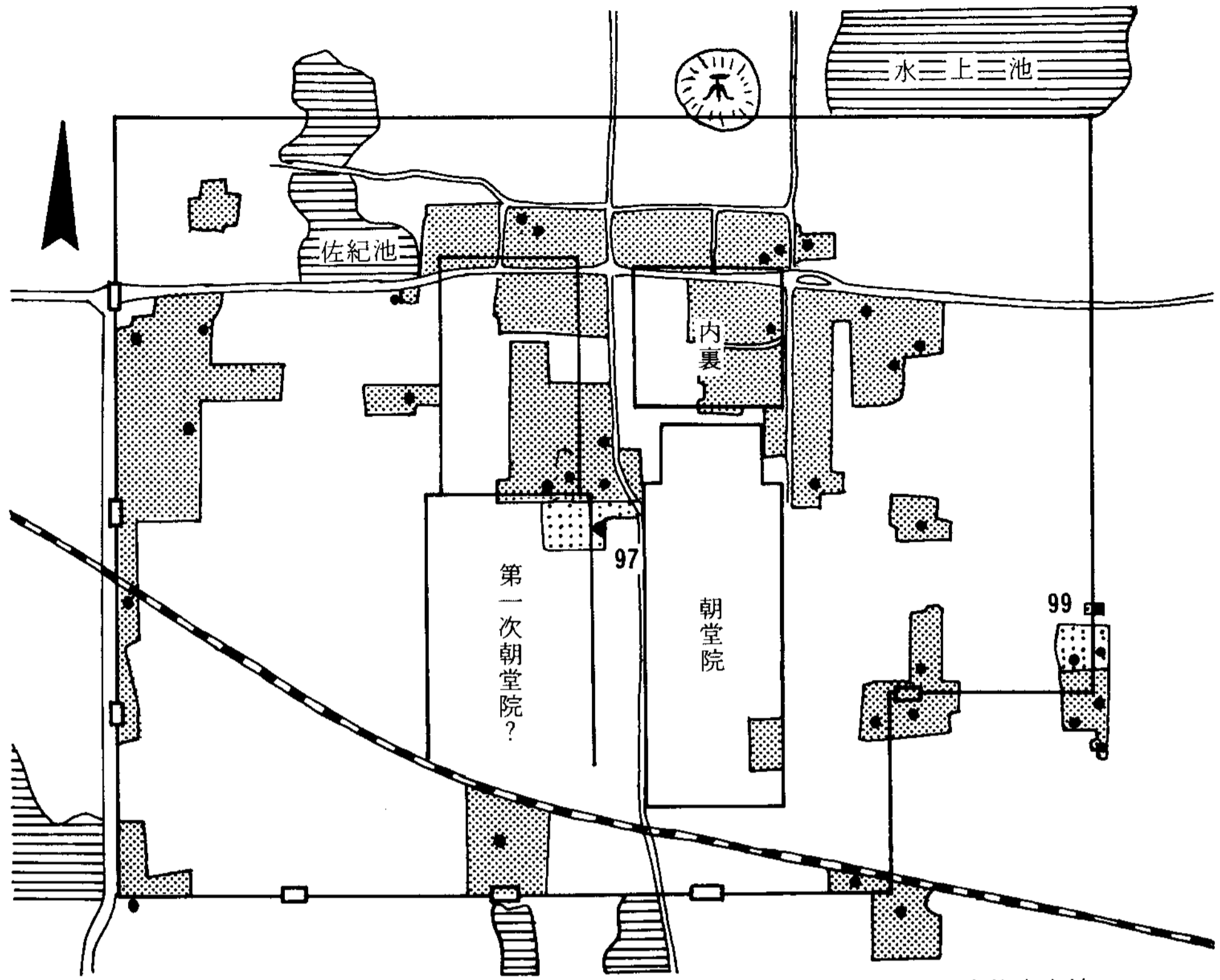
QH 22 081

「海上姝□□□」

QH 22 081

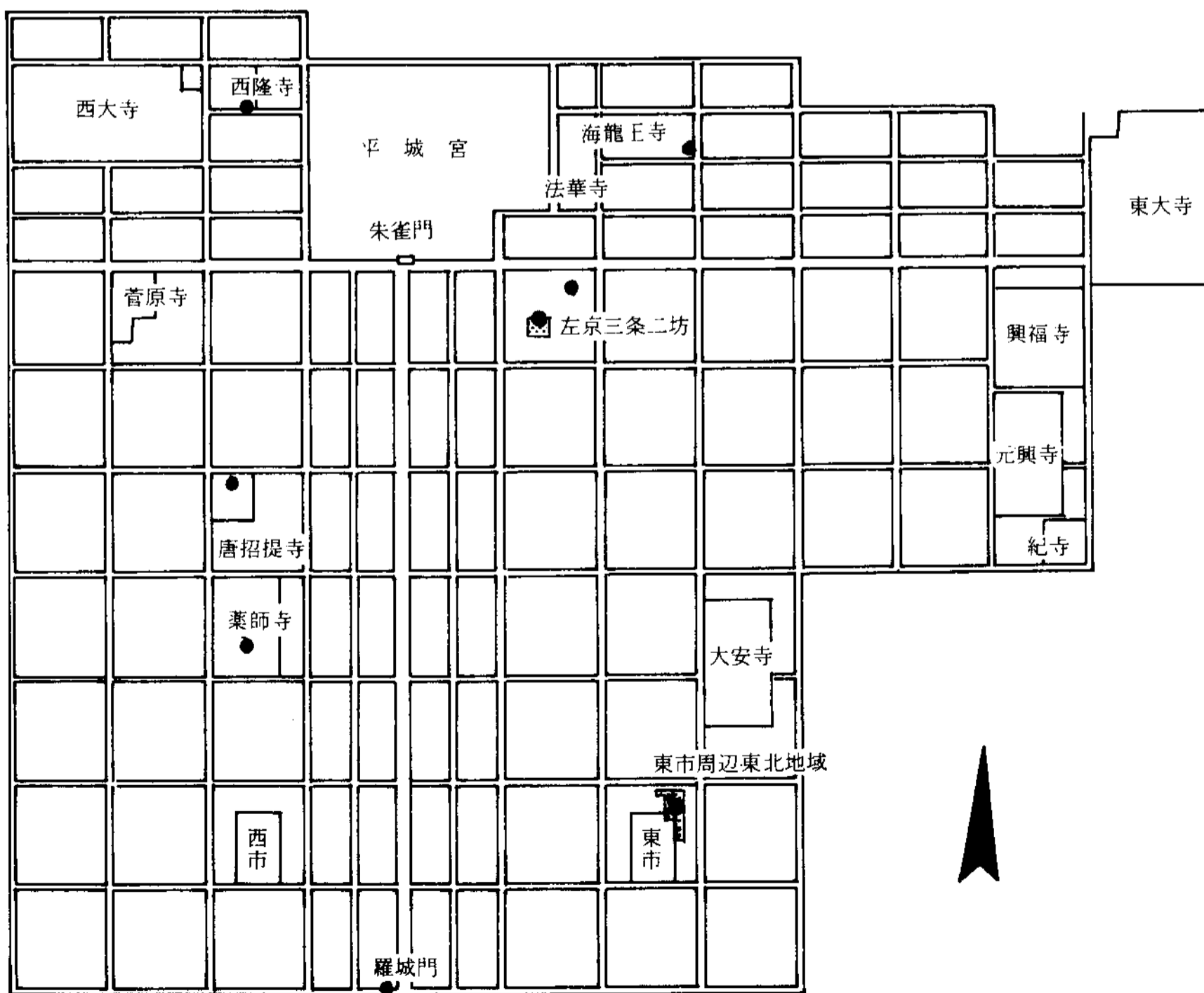
「□□□□日廿七夕廿□□」

「□□□□」



- 木簡出土地
- ▨ 本概報収録木簡出土地
- ▨ 既発掘地

平城宮木簡出土地点略図



平城京木簡出土地点略図